

## 令和 5 年度 沖縄県観光振興基金活用事業個票

担当部局：文化観光スポーツ部

区 分：第 1 号

## 【事業名】

観光 2 次交通利用促進事業（予算額：30,175 千円）

## 【事業の概要】

令和 5 年度において、観光は回復傾向にあるものの、繁忙期（GW、夏休み等）については、観光 2 次交通を十分に確保する必要があることから、市町村や観光事業者等が行う観光 2 次交通の確保・運行に要する経費（委託費など）に対し、補助を行う。

## &lt;補助対象者&gt;

市町村、観光事業者等

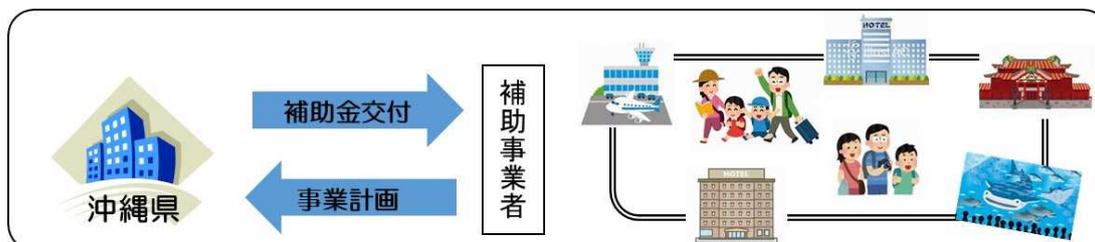
## &lt;要件&gt;

観光施設、交通事業者等と連携のうえ、観光施設等への 2 次交通を確保する事業計画を作成すること（例：観光施設と観光施設を繋ぐ 2 次交通（バスツアーや既存のバス路線がある場合は対象外）の確保、レンタカーを有効活用するため午前又は午後を別の 2 次交通を活用した 2 次交通の確保、那覇空港（中ノ島）で滞留する観光客の 2 次交通の確保、駐車場等の問題で車での移動が困難な観光地に移動する 2 次交通の確保 など）

## &lt;対象期間&gt;

4 月末～GW期間中、7 月～9 月、年末年始 等

## 【スキーム図】



## 【実績】

- ・ 交付決定 1 件（琉球バス交通（JTB沖縄と連携した那覇ぐるっとバス））
- ・ 交付決定 1,860,000 円、確定額 1,440,000 円（台風等により 7 日間運行出来ず）
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響によりバスの運転手不足が加速し、10 月以降、県内の路線バスで便数の縮減のほか、貸切バスの修学旅行の未手配などが発生し、運転手の確保が困難な状況であったため、その後の追加公募（執行）ができなかった。

## 【予算執行の仕組み】

## ※補助事業

- ① 補助対象：バス事業者、旅行会社、市町村
- ② 補助件数：1 事業者
- ③ 補助率：1/2
- ④ 補助上限：大型車 3,000 千円／台、中型車 2,550 千円／台、小型車 2,250 千円

## 令和5年度 沖縄県観光振興基金活用事業個票

担当部局：文化観光スポーツ部

区分：第1号

## 【事業名】

観光2次交通結節点機能強化事業（予算額：53,165千円）

## 【事業の概要】

持続可能な受入体制の構築のため、観光2次交通結節点となる候補地を検討し、当該エリアの主要なホテルやレンタカー事業所を周遊する小型バス等を運行することにより、レンタカー貸渡場所の分散化等を図る実証実験を実施する。

## 【スキーム図】



## 実施場所案



## 【実績】

- ・当初、北谷町役場と調整し、イオン北谷店前にある北谷町営駐車場のAエリアにおいて実証事業の検討をしてきた。
- ・その後、美浜アメリカンビレッジ事業者会との調整を行い、Aエリアではなく、Fエリアでの実証事業を求められた。
- ・そのため、Fエリアでの実証事業の可能性を検討してきた結果、Fエリアにおいて実証事業を実施するためには、一部歩道等の撤去する必要があるものの、当該歩道には電線共同溝管路が埋設されていること、今後、歩道上に地上機器の設置も予定されていることから、同エリアでの実証事業は実施が困難となった。
- ・しかしながら、Aエリアであれば、県の実証事業に協力出来る旨、北谷町から回答を得た。
- ・令和6年度からの実証事業に向けた事前調査、バスのテスト走行会を含む現地説明会等を行った。

## 【予算執行の仕組み】

## ※委託事業

- ① 委託先：(株)オリエンタルコンサルタンツ沖縄、(株)KSP・WEST
- ② 委託内容：
  - ・主要観光地までの交通手段となるモノレール、バス、タクシー、レンタカーなどへの乗り換え・乗り継ぎ地点となる「観光2次交通結節点」を設置するための事前調査及び走行テスト、地元関係期間との調整等を実施。
  - ・那覇空港3階構内道路でのレンタカー不適切受渡等を防止するため、見回り・周知等を行う業務。

## 令和 5 年度 沖縄県観光振興基金活用事業個票

担当部局：文化観光スポーツ部

区 分：1号

## 【事業名】

マリンレジャー事故防止調査対策事業（予算額：30,133千円）

## 【事業の概要】

ビーチや海岸の概要及び事故発生状況を含むハザードマップシステムを構築するとともに、安全にマリンレジャーを楽しむための動画等と共に取りまとめたポータルサイト「沖縄マリンセーフティ（仮称）」を公開し、観光客に対しては海の危険性及び正しい知識を周知し、事業者に対しては最新の事故及びヒヤリハット事例等を提供することで水難事故防止へと繋げる。

【情報発信について】 令和4年度で制作されたコンテンツを下記のとおり観光客へ周知を行う。

## ○ホテル

ポスター及びパンフレットの設置を行い、ハザードマップとポータルサイトへアクセスできるQRコードを掲載したカードを配布。

## ○空港

機内にパンフレットの設置とアナウンスにて注意喚起。空港内ではスカイビジョンにて動画放映。

## ○LINEとの連携

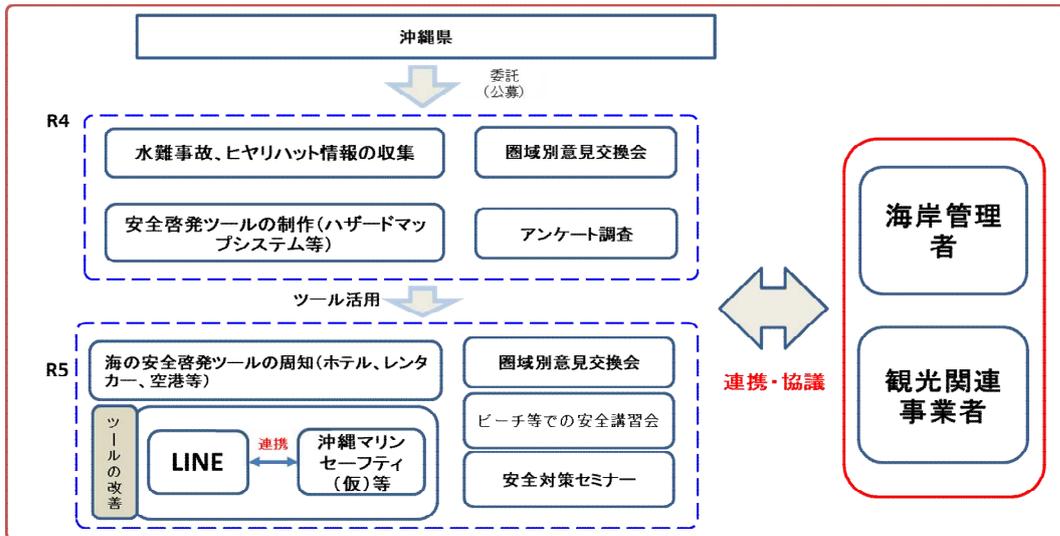
既存の安全啓発ツールと利用者が多い携帯端末アプリ「LINE」と連携し、水難事故情報等（ヒヤリハット情報や未然防止策含む）を\*プッシュ型で通知する。

また、観光客自身がLINEにおいて、ビーチや海岸の情報を簡単に調べられるよう\*チャットボット形式を導入する。

## 【ビーチ等での安全講習会の実施】

ライフセービング協会のライフセーバーによる遊泳者向けの海の安全講習会を実施し、水難事故未然防止と海の危険性及びマリンレジャーを行う際の正しい知識を周知する。

## 【スキーム図】



## 【実績】

- 海の安全啓発ツールの周知（ハザードマップシステム、ポータルサイト、パンフレット及び動画等の周知）  
ホテル事業者：70事業者 レンタカー事業者：9社15営業所 市町村：41市町村 観光協会：40協会、那覇空港等
- 海の安全啓発ツールの改善  
周知広報及び利用促進を図るため、利用者の多い「LINE」と連携した。（友達登録者数：1,789人）
- ライフセーバーによる海の安全講習会（観光シーズン7月8月のみ実施）  
実施回数：28回（本島エリア10回 宮古島エリア9回 八重山エリア9回）  
訪問ビーチ数：56箇所（本島エリア14箇所 宮古島エリア31箇所 八重山エリア11箇所）  
注意喚起人数：4,426人（本島エリア1,196人 宮古島エリア950人 八重山エリア2,280人）

## 【課題】

水難事故は年間通じて発生することから、安全啓発ツールの周知広報の強化とライフセーバーによる安全指導は観光シーズンのみではなく通年で実施する必要がある。また、令和5年の水難事故では事業者における大規模事故が多発したことから事業者への水難事故防止対策におけるスキルアップ講習等が必要である。

## 【予算執行の仕組み】

※委託事業

- ①委託先：オリエンタルコンサルタンツ 沖縄支社（R4受託事業者）
- ②委託内容：概要欄の記載のとおり

## 令和5年度 沖縄県観光振興基金活用事業個票

担当部局：文化観光スポーツ部

区分：第1号

## 【事業名】

観光人材確保支援事業（予算額：248,994千円）

## 【事業の概要】

従業員の労働環境を改善し、人材の確保・定着を図るため、観光事業者の生産性向上に資する取組を支援するとともに、観光事業者と求職者のマッチングを促進することにより、観光業界の持続的発展に繋がる人材の確保を図る。

## (1) 観光事業者労働生産性向上支援事業

観光事業者の労働生産性向上に資する取組を支援する。

○補助対象者：県内観光関連事業者

○対象経費：ソフトウェア等の購入・改良費、施設整備、装具・器具等の購入費等

○補助率：対象経費の2/3（※上限1,000万円）

○補助件数：15件

## (2) 観光人材マッチング支援事業（細事業②）

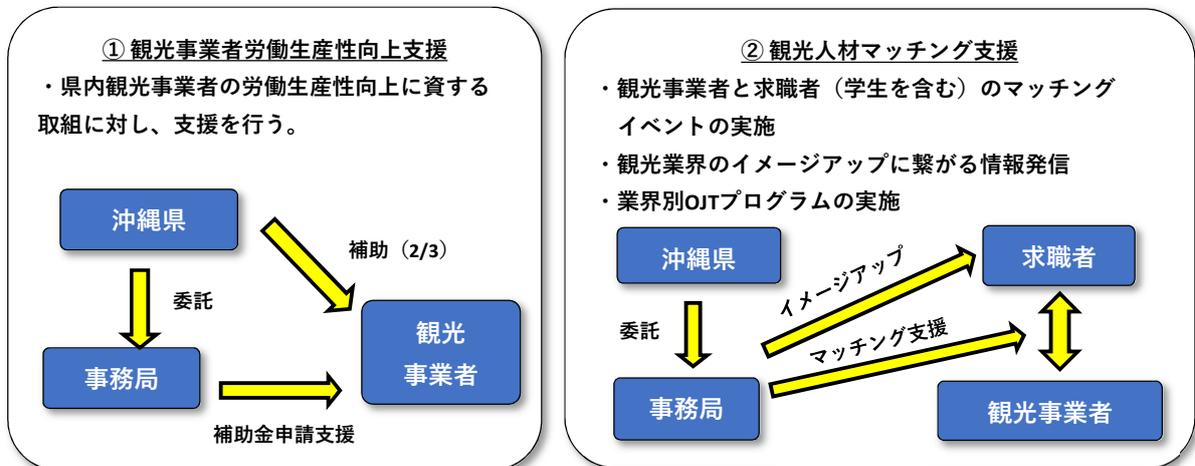
観光現場の魅力を発信するとともに、観光事業者と学生等を含む求職者とのマッチングを促進するため、主に以下3つの取組を実施

①観光現場における様々な取組を伝える広報

②観光業界に特化した合同就職説明会の開催

③職場訓練（インターン）の促進・職場見学バスツアーの開催

## 【スキーム図】



## 【実績】

## ①観光事業者労働生産性向上支援事業

- ・採択事業者…13社
- ・交付申請総額…93,267千円
- ・対象経費…
  - └自動チェックイン機3件
  - └セルフレジ4件
  - └お掃除ロボット1件
  - └その他システム構築費等5件

## ②観光人材マッチング支援事業

- ・合同就職説明会の開催…7回実施済
    - └参加者総数…275名
  - ・職場訓練生の申込件数…146名
  - ・職場見学ツアー参加者数…114名
- ※本事業実施による内定数についても調査中。

## 【予算執行の仕組み】

※委託事業

①委託先：代表企業…(株)琉球新報開発、構成員…アドスタッフ博報堂

②委託内容：概要欄の記載のとおり

## 令和 5 年度 沖縄県観光振興基金活用事業個票

担当部局：文化観光スポーツ部

区 分：第1号

## 【事業名】

MICE受入体制強化等事業（予算額：43,065千円）

## 【事業の概要】

MICE専門人材の育成や専門アドバイザーの派遣などの取組を充実させ、県内のMICE受入体制の強化を図るとともに、「沖縄らしさ」を活用して沖縄MICEブランド向上に取り組み、MICE参加者の満足へつなげる。

## 【スキーム図】

**1 受入体制の強化**

## (1) MICE人材育成事業

・国内外でのMICE誘致・プロモーション活動の強化や受入体制整備を担うMICE専門の人材育成を目的として全8回のセミナーを実施（WEB：6回、対面：2回）

実施期間：令和5年7月～令和6年2月末日まで

対 象 者：MICE未経験者～県内MICE関連事業者（初級～応用編）

## (2) 専門アドバイザー派遣事業

・MICE主催者ニーズに対応可能な能力・技能の向上やサービスの拡充を図るため、専門アドバイザー派遣により助言・指導を行う

実施期間：令和5年5月～令和6年2月末日まで

対 象 者：県内MICE関連事業者（1社につき最大4回まで派遣可、1派遣 2時間程度）

派遣内容：カーボンニュートラル・サステナビリティ・商品開発・ブランディング・プロモーション・セールス等に関する専門アドバイザーを派遣

**2 「沖縄らしさ」を活用し沖縄MICEブランドの向上を図り、参加者の満足へつなげる。**

## (1) 開催歓迎事業（おもてなしメニュー）

・県内で開催されるMICEの満足度向上を目的として実施

対象期間：令和5年4月1日～令和6年3月末日までに開催される催事

対象条件：ミーティング（M）・インセンティブ（I）・コンベンション（C）

沖縄県外（海外含む）からの参加者100名以上

支援内容：以下のうちいずれか1つ

- ・ 空港等での歓迎式
- ・ 観光PR大使の派遣（マハエ・マハ朗）
- ・ 芸能アトラクション派遣
- ・ 泡盛試飲ブースの派遣
- ・ 琉装体験ブースの設置
- ・ コンgressバックの提供（M・Cに限り併用可）

## 【実績】

令和6年3月31日現在

・人材育成事業 人材育成セミナー8回開催（WEB：6回、対面：2回）

参加実績：第1回 24名、第2回 23名、第3回 15名、第4回 18名、第5回 19名  
第6回26名 第7回27名 第8回15名 YouTube配信視聴数：104回

・アドバイザー派遣事業 5社派遣済

・開催歓迎事業 125件支援実施済

芸能アトラクション派遣 58件、コンgressバックの提供 39件、泡盛試飲ブースの設置 21件、沖縄観光PR大使派遣3件、琉球衣装体験ブース2件、空港・港湾等お出迎え2件

## 【予算執行の仕組み】

委託事業

①委託先 OCVB

②委託内容・MICE人材育成事業・専門アドバイザーの派遣・MICE開催歓迎支援

## 令和 5 年度 沖縄県観光振興基金活用事業個票

担当部局：環境部

区 分：第 2 号

## 【事業名】

サンゴ礁保全再生活動促進事業

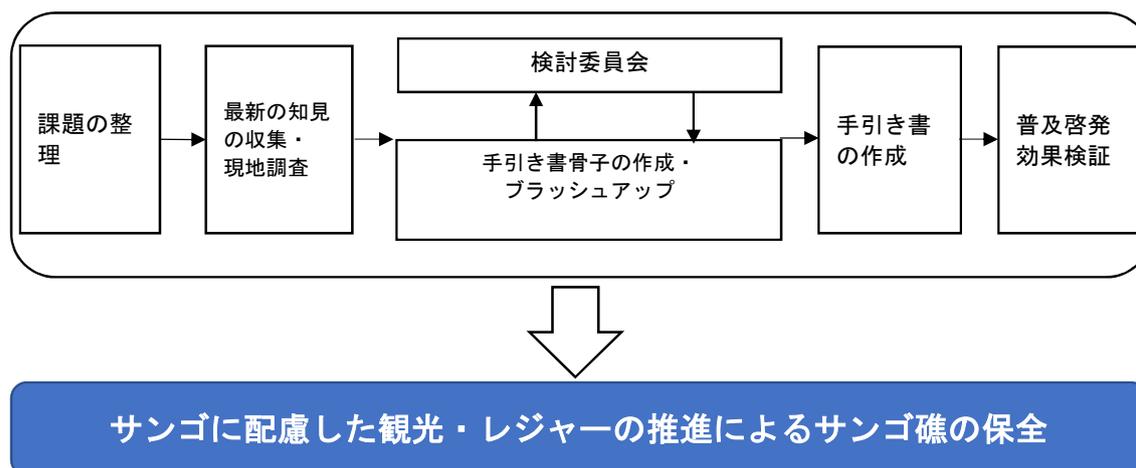
(予算額：17,985千円 うち沖縄県観光振興基金：14,388千円)

## 【事業の概要】

生物多様性の保全、観光資源・漁業資源として重要な価値を有しているサンゴ礁の保全を図るため、観光・レジャーによるサンゴ礁への影響を整理し、最新の知見を収集するとともに、観光・レジャー事業者向けのサンゴ礁保全のための普及啓発を行う。

また、ダイビング船係留ブイの設置によるサンゴ礁保全への効果検証を行う。

## 【スキーム図】



## 【実績】

- ・プロポーザル方式により事業受託者を選定し、観光・レジャーの過剰な利用、不適正な利用によるサンゴ礁への影響について、課題の整理や資料収集、現地調査及び関係者ヒアリングを実施した。
- ・有識者で構成する検討委員会を設置し、サンゴ礁の適正利用に関する手引き書の骨子について検討を行った。

## 【予算執行の仕組み】

※委託事業

①委託先：一般財団法人沖縄県環境科学センター

②委託内容：観光やレジャーによるサンゴへの影響の整理

係留ブイ設置事例の把握、係留ブイ利用モデル事業の検討

観光客・レジャー事業者向け普及啓発方法の検討

## 令和5年度 沖縄県観光振興基金活用事業個票

担当部局：文化観光スポーツ部

区分：第3号

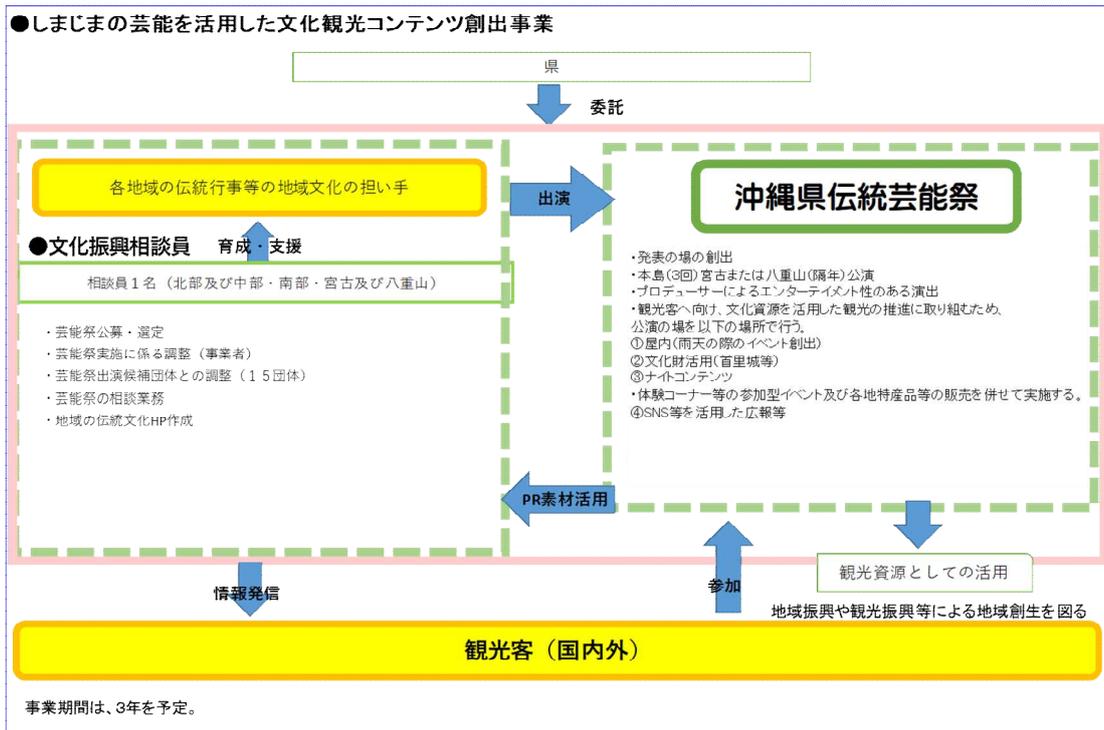
## 【事業名】

しまじまの芸能を活用した文化観光コンテンツ創出事業（予算額：46,864千円）

## 【事業の概要】

「沖縄県伝統芸能祭」（屋内、文化財活用、ナイトコンテンツ等）を行うことにより、文化資源を活用した観光振興を図り、国内外からの観光客の受入体制の強化を図る。

## 【スキーム図】



## 【実績】

R5.5月に委託契約締結（契約額：38,272千円）。

○Heart of the Ryukyus～しまじまの芸能祭～開催

R5.12.17 JTAドーム宮古島

R6.1.13 なはーと（小劇場）

R6.2.4 首里城公園（芝生広場） 計15団体出演

○文化相談員による地域伝統芸能の実態調査

市町村向け基礎調査及び伝統芸能団体向け調査実施（R5.7～9月）

37市町村から回答 296団体へ調査票配布→125団体から回答（回答率42.2%）

調査内容集計・分析（R5.9下旬～R5.10下旬）

17団体に対しフィールド調査（1月～2月）実施した。

調査回答団体125団体のうち、ハンズオン支援希望があった57団体（約45.6%）のカルテを作成し、順次、相談支援を行った。

○情報発信

特設サイトを開設（R5.12.1～12.31）し、芸能祭の告知や地域の伝統行事等の概要をわかりやすく解説し、国内外に向けて情報発信を行った。

## 【予算執行の仕組み】

※委託事業

①委託先：株式会社アドスタッフ博報堂

②委託内容：「沖縄県伝統芸能祭」の開催。（活動指標：本島2回、離島1回開催）

文化資源の掘り起こしと活動支援を行う。

## 令和 5 年度 沖縄県観光振興基金活用事業個票

担当部局：文化観光スポーツ部

区 分：第 3 号

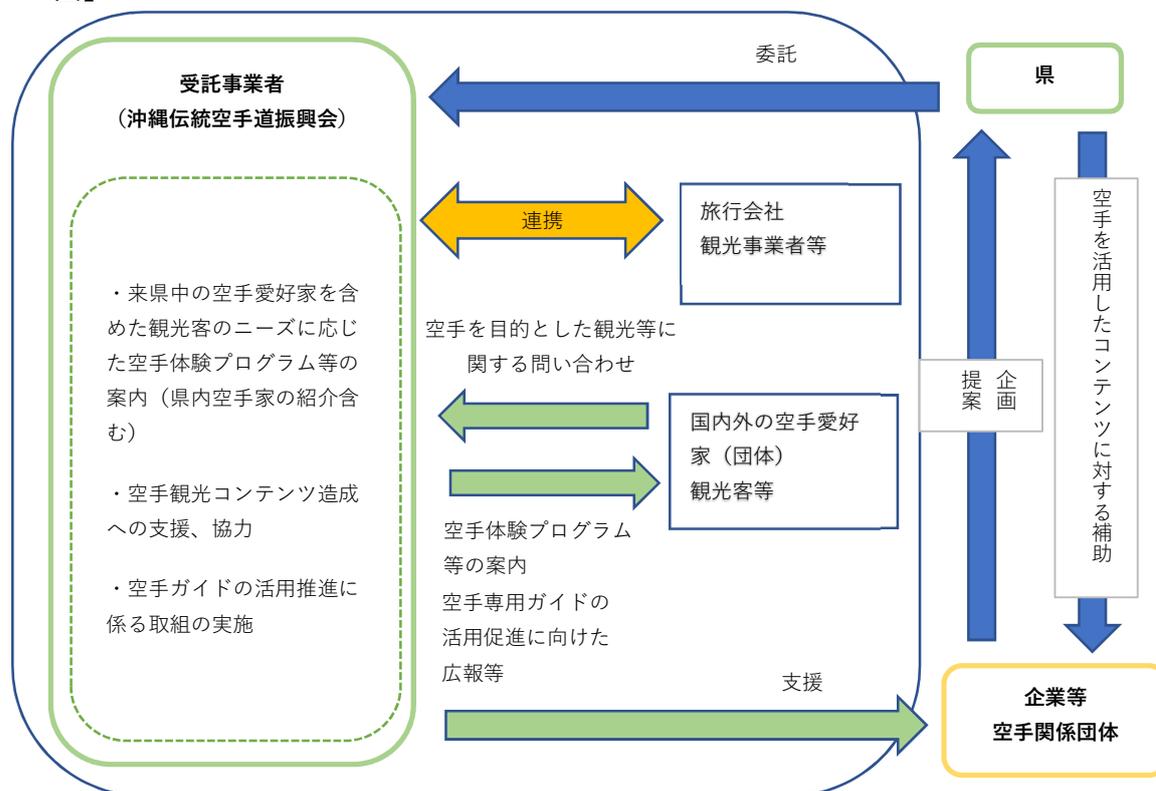
## 【事業名】

空手ツーリズム受入体制構築事業（予算額：22,169千円）

## 【事業の概要】

沖縄空手を文化観光資源として活用した空手ツーリズムを推進するため、国内外からの空手愛好家（ヘビー層）や観光客（ライト層）のニーズに適切に対応できる窓口を設置するとともに、空手による来訪ニーズを見込んだ沖縄空手観光コンテンツの造成支援を行うことで受入体制構築及び強化に取り組み、沖縄空手の持続的な発展、観光産業への寄与を図る。

## 【スキーム図】



## 【実績】

### (1)委託事業

空手に関する観光窓口（空手ツーリズムウェブサイト）を開設し、空手関連史跡の紹介や観光事業者等が行う空手観光コンテンツの案内等を実施した。

沖縄空手ガイドの実態調査を行うとともに、旅行会社等への空手ガイドのコーディネートや補助事業の商品造成支援等を実施した。

### (2)補助事業

旅行会社が造成する空手観光コンテンツへの補助を2件実施。

①補助金額：4,915千円、内容：商品造成に向けた県内道場のインバウンド等調査、空手ガイド活用に向けた研修等

②補助金額：2,613千円、内容：観光客等を対象としたツアー造成等

## 【予算執行の仕組み】

### ※委託事業

①委託先：（一社）沖縄伝統空手道振興会

②委託内容：空手に関する観光窓口（空手ツーリズムウェブサイト）の開設、運営。

沖縄空手ガイドの実態調査及び旅行会社等へのコーディネート、

補助事業の商品造成支援など

### ※補助事業

①補助対象：観光関連事業を行う団体

②補助件数：2事業者

③補助率：8/10

④補助上限：500万円

## 令和 5 年度 沖縄県観光振興基金活用事業個票

担当部局：文化観光スポーツ部

区 分：第 3 号

## 【事業名】

新たなアクティビティを活用したスポーツツーリズムコンテンツ創出事業  
 (予算額：26,425千円)

## 【事業の概要】

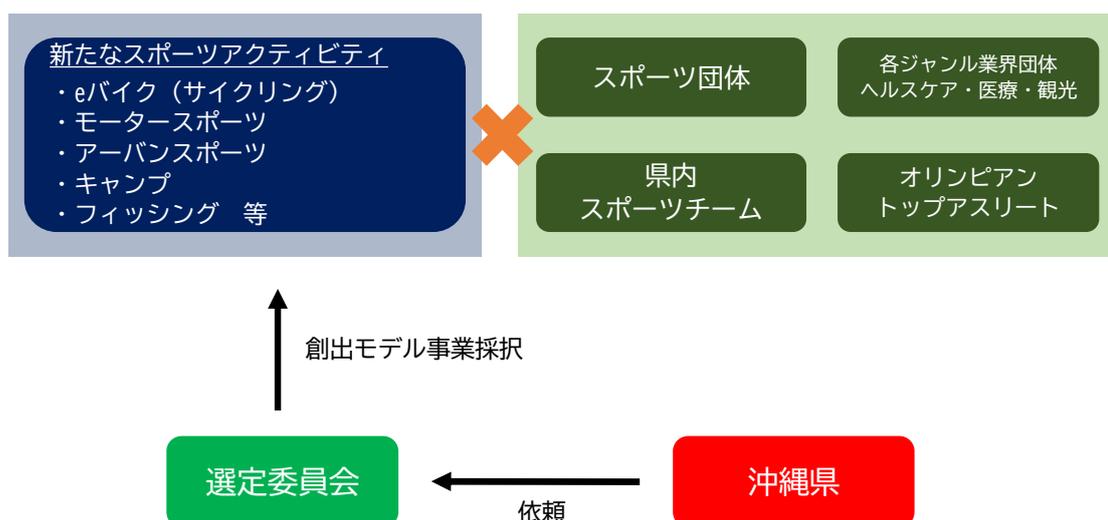
本県スポーツ市場の拡大に向け、スポーツコンベンションやスポーツツーリズムの強化が必要となるため、新たなコンテンツの開発に取り組み、地域経済の活性化を推進する。

補助の対象となるスポーツアクティビティは、県内で今後ツーリズムコンテンツとしての活用が見込まれるアクティビティ（自転車活用、ランニング、モーター、アーバン、武道、アウトドアなど）とする。

【補助率】 3分の2以内（補助上限額 5,000千円）

なお、創出したコンテンツについては、スポーツ観光誘客促進事業等と連携し、WEBサイトやSNSへの掲載、県内ホテル等への周知に取り組み、誘客につなげる。

## 【スキーム図】



## 【実績】

令和5年度は3件の事業に対して補助金を交付した。

- ① (株)イーチャリティ：電動自転車ツアー造成事業（補助額 3,887千円）  
負担の少ない電動自転車（E-bike）によるツアープログラムを造成し、商品化した。
- ② (株)りゅう：バーチャルスポーツARゲームアリーナの構築（補助額 4,696千円）  
拡張空間（AR）を活用し、ホテルなど屋内にも設置が可能な全天候型のスポーツアクティビティとして展開したが、採算に課題があり商品化には至っていない。
- ③ (株)ジャンボツアーズ：古武道体験ツアー（補助額 1,590千円）  
古武道体験ツアー（琉球古武道、合気道等）を造成し、商品化した。

## 【予算執行仕組み】

- ①補助対象：沖縄県内に事業所を有する法人、大学、共同事業体 等
- ②補助件数：5件程度
- ③補助率：2/3
- ④補助上限：5,000千円

# 令和5年度 沖縄県観光振興基金活用事業個票

担当部局：文化観光スポーツ部  
区分：第4号

## 【事業名】

サステナブルツーリズム推進事業（予算額：11,984千円）

## 【事業の概要】

沖縄観光における諸問題及びその課題解決に向けた取組を含むサステナブルツーリズムに係る実態調査を行い、沖縄ならではのサステナブルツーリズムの推進に係る課題を把握するとともに、県民・訪問者の共感につなげていくための事例を収集する。

その調査結果を有識者等で構成される委員会にて整理し、地域の価値や魅力が地域コミュニティ、地域産業、訪問者に共有される沖縄ならではのサステナブルツーリズム推進の方向性を取りまとめ、「沖縄サステナブルツーリズム（仮称）宣言」を行うとともに、推進体制の構築等と周知啓発に取り組む。

## 【実施内容】

持続可能な観光を推進する中で、「サステナブルツーリズム」の認知度やノウハウ、課題解決手法が確立されていない事から必要な方策や支援を掘り起こすため、以下の取組を行う。

### ○観光諸問題解決業務

取組内容：観光諸問題が発生している地域に対し検討委員会が選定した専門家を派遣する。  
観光諸問題解決に向けた地域における具体的な取組の立案・実施・改善を支援。  
同時に取組事例について積極的に県内展開を図る。

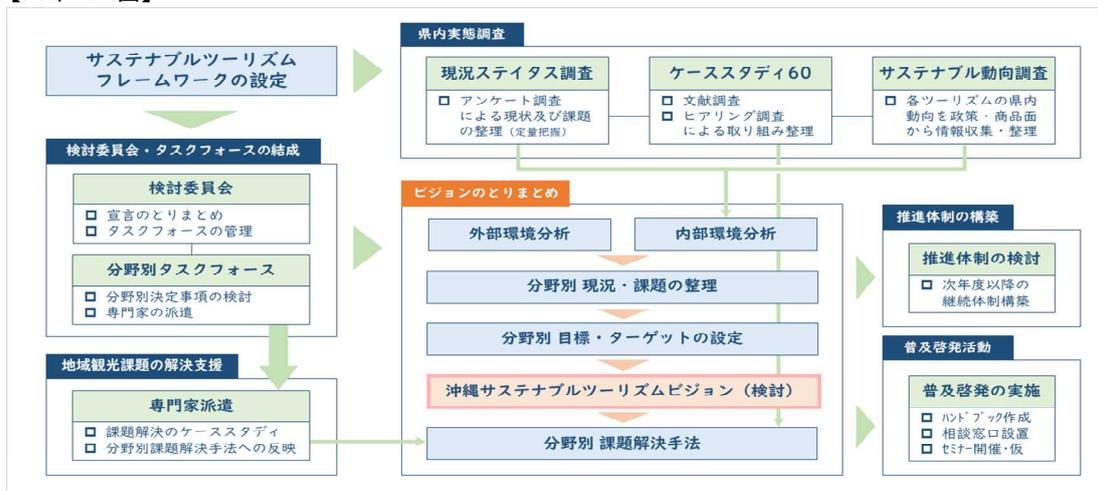
### ○普及啓発活動（対象：市町村、DMO、取組事業者等）

取組内容：事例紹介や効果等の説明、相談窓口の設置、取組意欲を喚起。検討委員会の設置（課題の洗い出し、サステナブルツーリズム宣言（仮）の設定、地域における取組や人材育成等解決の方向性提示）。

### ○県内実態調査（対象：県民、取組事業者、DMO）

取組内容：①観光客を歓迎していない県民へのアンケート調査。②取組事業者の取組事例の把握。

## 【スキーム図】



## 【実績】

### 【県内実態調査】※サステナブルツーリズム取組調査

市町村：41市町村 観光協会：38協会 宿泊施設：279事業者 観光施設：142事業者

### 【検討委員会の実施】

年3回実施し、取組対象分野（環境・社会・経済）と取組主体（観光客、事業者、県民等）について、それぞれの沖縄らしいサステナブルツーリズム体制を構築する議論を行った。

### 【地域観光課題の解決支援】

県内で取組を行っている事業者及び行政等に専門家派遣を実施

### 【普及啓発活動】

沖縄らしいサステナブルツーリズム推進ハンドブック作成

## 【予算執行の仕組み】

- ① 委託先：公益財団法人日本交通公社
- ② 委託内容：
  - ・サステナブルツーリズム県内実態調査
  - ・観光諸問題解決に向けた具体的な取組の立案・改善の支援及び沖縄サステナブルツーリズム宣言（仮称）の設定に向けた検討委員会の設置及び開催
  - ・地域観光課題解決の支援
  - ・サステナブルツーリズム推進体制の構築
  - ・普及啓蒙活動